

参考資料 2

式と計算（第4学年）指導計画

次	時	主 眼	主な学習活動	支援・評価のポイント	評価	
一 （ 本 時 ） を 使 っ た 式	3 時 間	1	自分なりの式や友達の式を比較、検討し、一つの式にするよさに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の式などを基に（ ）を用いて、加法と減法の混じった4要素3段階の文章問題を一つの式に表す。 お互いが考えた式を検討する。 示された式から問題を作り、一つの式でもいろいろな問題場面に適用できることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物場面の模擬体験を通して具体物を使った問題をつかませる。 自分なりの式を自分の言葉で説明できるように言葉の式などを手掛かりに立式させる。 実生活でも使われているのはどんな式かという観点で、自分なりの式や友達の式を比較、検討し、一つの式にするよさに気付かせる。 一つの式にして計算できるような問題を作らせる。自分なりの式や友達の式を比較、検討し、一つの式にするよさに気付くことができたか。 	
		2	乗法と除法の混合式の立式の仕方と計算順序を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 乗法と除法の2段階の文章問題を（ ）を用いて、一つの式に表す。 示された式から問題を作り、一つの式でもいろいろな問題場面に適用できることを知る。 \div（\times）と立式できる文章問題を考え、互いに問題を解き合い、答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の模擬体験を通して、具体物を使い、問題をつかませる。 自由に考えさせ、必要に応じて言葉の式をヒントとして与える。 教師が示した一つの式から、自分なりの文章問題を作らせる。 \div（\times）と立式できる文章問題を考えることが難しい子どもには数字を入れた式を与えて、文章問題を作らせる。乗法と除法の混合式の立式の仕方と計算順序が理解できたか。 	
		3	練習問題を解き、（ ）を使った問題を作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題を解き、答え合わせをする。 （ ）を使って立式できるような問題作りをし、お互いに問題を解き合い、答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作った式を自分の言葉で説明させる。 問題作りが難しい児童には、個別に買い物などの場面を想起させ、問題を作らせるようにする。（ ）を使った問題作りができたか。 	

次	時	主 眼	主な学習活動	支援・評価のポイント 評価
二	1	加減乗除や()の混在した計算の順序を知り、正しく計算できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・()を使って立式した際、乗除の式には()を省略することを知る。 ・加減乗除や()の混在するいろいろな式の計算順序を考えて練習問題を解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・左から順に ・()を先に ・乗除を優先 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算順序の理解が難しい児童には、言葉の式をヒントに導かせるようにする。 ・加減と乗除が混在する式は、乗除を優先するという決まりから()を省略する場合もあり、より簡潔な式になるというよさに気付かせる。 <p>加減乗除や()の混在する計算を正しく理解することができたか。</p>
	2	計算順序の決まりを理解し、正しく計算することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3を四つ使って0から9が答えとなるような計算式をみんなで作る。 ・4を四つ使って0から9が答えとなるような計算式を個別に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人で協力して計算式を作らせる。 ・答えが同じ数字でも、いろいろな式が考えられることに気付かせる。 ・4を四つ使った立式に個別に取り組ませる。 ・立式ができない児童には、個別にヒントを与える。 <p>計算順序の決まりの理解ができたか。</p>